

共催セッション

■共催セミナー1

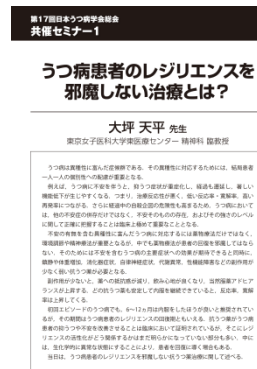
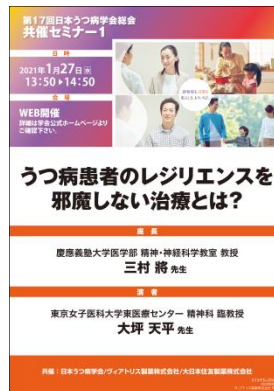
ライブ配信 1月27日(水) 13:50~14:50

うつ病患者のレジリエンスを邪魔しない治療とは？

座長：三村 將 先生（慶應義塾大学医学部 精神・神経科学教室）

演者：大坪 天平 先生（東京女子医科大学東医療センター精神科）

共催：ヴィアトリス製薬株式会社/大日本住友製薬株式会社



■共催セミナー2

ライブ配信 1月28日(木) 9:00~10:00

休職中勤労者うつ病患者の復職の課題と今後

座長：大森 哲郎 先生（徳島大学大学院医歯薬学研究部精神医学分野）

演者：堀 輝 先生（社会医療法人北九州病院 北九州古賀病院/
産業医科大学医学部 精神医学教室）

共催：日本イーライリリー株式会社/塩野義製薬株式会社



■共催セミナー3

ライブ配信 1月28日(木) 10:20~11:20

うつ病診療における Shared Decision Making (SDM) の実現可能性

座長：尾崎 紀夫 先生（名古屋大学大学院医学系研究科
精神医学・親と子どもの心療学分野）

演者：渡邊 衡一郎先生（杏林大学医学部精神神経科学教室）

共催：武田薬品工業株式会社/ルンドベック・ジャパン株式会社



■ 共催セミナー4

ライブ配信 1月28日(木) 13:00~14:00

うつ病治療の unmet medical needs を多層的に紐解いてみる

座長：中尾 智博 先生（九州大学大学院医学研究院 精神病態医学）

演者：加藤 正樹 先生（関西医科大学 精神神経科学教室）

共催：Meiji Seika ファルマ株式会社



■ 共催セミナー5

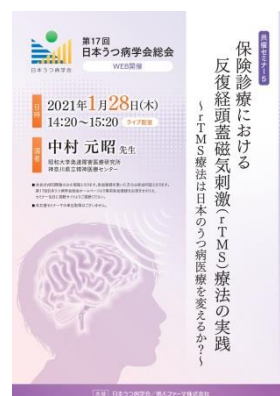
ライブ配信 1月28日(木) 14:20~15:20

保険診療における反復経頭蓋磁気刺激（rTMS）療法の実践

～rTMS 療法は日本のうつ病医療を変えるか？～

演者：中村 元昭 先生（昭和大学発達障害医療研究所
神奈川県立精神医療センター）

共催：帝人ファーマ株式会社



■ 共催セミナー6

ライブ配信 1月28日(木) 18:00~19:00

双極性障害の診断の見分け方と治療ガイドラインの用い方

座長：寺尾 岳 先生（大分大学医学部精神神経医学講座）

演者：松尾 幸治 先生（埼玉医科大学医学部精神医学

埼玉医科大学病院 神経精神科・心療内科）

共催：共和薬品工業株式会社/吉富薬品株式会社



■共催セミナー7

ライブ配信 1月29日(金) 9:00~10:00

うつ病患者の復職・復職後サポート：主治医—職域連携

座長：吉村 玲児 先生（産業医科大学医学部精神医学教室）

演者：井上 幸紀 先生（大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学）

共催：持田製薬株式会社/田辺三菱製薬株式会社/吉富薬品株式会社



■共催セミナー8

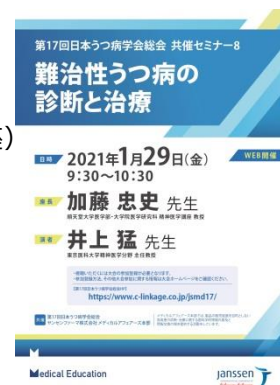
ライブ配信 1月29日(金) 9:30~10:30

難治性うつ病の診断と治療

座長：加藤 忠史 先生（順天堂大学医学部・大学院医学研究科 精神医学講座）

演者：井上 猛 先生（東京医科大学精神医学分野）

共催：ヤンセンファーマ株式会社 メディカルアフェアーズ本部



■共催セミナー9

ライブ配信 1月29日(金) 10:30~11:30

双極性障害治療において寛解を目指すために治療者が心がけるべきことは

座長：寺尾 岳 先生（大分大学医学部精神神経医学講座）

演者：坪井 貴嗣 先生（杏林大学医学部精神神経科学教室）

共催：大塚製薬株式会社



■ 共催セミナー10

ライブ配信 1月29日(金) 11:00~12:00

双極性障害に対する薬物治療のエビデンスレビュー：ルラシドンに焦点を当てて

座長：松尾 幸治 先生（埼玉医科大学医学部精神医学

埼玉医科大学病院 神経精神科・心療内科）

演者：岸 太郎 先生（藤田医科大学医学部精神神経科学講座）

共催：大日本住友製薬株式会社



■ 共催セミナー11

ライブ配信 1月29日(金) 12:10~13:10

共同意思決定（Shared Decision Making）による不眠症治療戦略

座長：内山 真 先生（日本大学医学部精神医学系精神医学分野）

演者：高江洲 義和 先生（琉球大学大学院医学研究科 精神病態医学講座）

共催：エーザイ株式会社



■ 共催セミナー12

オンデマンド配信 1月27日(水)~29日(金)

いまは、アルコール依存症治療の夜明けなのか

～ナルメフェンをどのように臨床応用するのか～

座長：井上 猛 先生（東京医科大学精神医学分野）

演者：宮田 久嗣 先生（東京慈恵会医科大学精神医学講座）

共催：大塚製薬株式会社

双極性障害に対する抗精神病薬の有用性と問題点**【趣旨・狙い】**

双極性障害の治療の基本は薬物療法であり、本邦では気分安定薬と第2世代抗精神病薬が汎用されている。気分安定薬はガイドラインでも推奨され、治療のベースとされているが、実臨床では第2世代抗精神病薬を使用するケースも多い。第2世代抗精神病薬は「躁病エピソード」、「うつ病エピソード」及び「維持療法」それぞれで有用性が認められている一方で、長期的な使用については身体的な有害作用にも十分な注意が必要であることが報告されている。

本シンポジウムでは「躁病エピソード」、「うつ病エピソード」及び「維持療法」のそれぞれにおける抗精神病薬の有用性と安全性を最近の知見やエビデンスから紐解いていく。

座長：渡邊 衡一郎 先生（杏林大学医学部 精神神経科学教室）

演者：「躁・軽躁状態の薬物療法について語るときに僕が考えること」

加藤 正樹 先生（関西医科大学 精神神経科学教室）

「双極性障害抑うつエピソードの薬物療法における抗精神病薬の位置づけ」

田中 輝明 先生（KKR 札幌医療センター 精神科）

「双極性障害維持療法における抗精神病薬の有効性と安全性」

三浦 智史 先生（医療法人優なぎ会 雁の巣病院）

共催：大日本住友製薬株式会社



「うつ」のリワークプログラムの過去、現在、未来 ～コロナ時代のリワーク～

【趣旨・狙い】

コロナ禍の中で第17回日本うつ病学会が開かれようとしている。以前の企画では、このシンポは一般社団法人日本うつ病リワーク協会（以下、協会）の2020年～2022年の年次大会3代の大会長を招いて、「リワークプログラムの過去、現在、未来」をテーマとしていた。

2020年の協会の大会はコロナ感染拡大による緊急事態宣言発令の直前で、Webで開催した。また、2021年もWeb開催となることが決定させた。更に2022年はコロナ感染の鎮静化が進めば日本うつ病学会との合同開催が予定され、現地開催が可能となると予測している。

リワークに関する概括的な話のあと、2020年大会長の大橋先生には、コロナ感染拡大の中で現地開催を急遽Web開催とした経験を通じてのリワークプログラムへの影響などを語っていただく。2021年の佐々木先生には、協会が実施した協会会員を対象としたコロナの影響に関する調査に触れてもらいながら、集団プログラムを実施している立場からコロナ禍の多面的な影響を考察していただく。最後に寺尾先生には、ポストコロナといわれる時代に入ってくることを予測して、生活環境ばかりでなく労働環境の変化も予測されるなかで、個別性の高いプログラム提供が必要なことを論じていただく。

座長：五十嵐 良雄 先生（一般社団法人日本うつ病リワーク協会）

演者：「日本のリワークプログラムのはじまり」

五十嵐 良雄 先生（一般社団法人日本うつ病リワーク協会）

「リワーク研究会から協会へ、そして第3回年次大会 web 開催」

大橋 昌資 先生（医療法人啓夏会 響ストレスケア

～こころとからだの診療所）

「現在のリワークプログラム～コロナ時代のリワーク～」

佐々木 一 先生（医療法人社団爽風会（心の風クリニック千葉・船橋））

「未来のリワークプログラム：ポストコロナ時代のリワーク」

寺尾 岳 先生（大分大学医学部精神神経医学講座）

共催：武田薬品工業株式会社 ジャパンメディカルオフィス/

ルンドベック・ジャパン株式会社 メディカルアフケアーズ部

The poster is for the 17th Japan Depression Conference (第17回 日本うつ病学会総会). It features a blue background with white and yellow text. At the top right, it says '共催シンポジウム 2' (Co-organized Symposium 2). The main title is '「うつ」のリワークプログラムの過去、現在、未来 ～コロナ時代のリワーク～' (Past, Present, Future of 'うつ' Rework Programs ~Rework in the COVID-19 Era~). Below the title, it indicates the date and time: '2021年1月28日(木) 13:40~15:40'. A URL is provided: 'https://www.wc-linkage.co.jp/jsmd17/'. The program list includes: '日本のリワークプログラムのはじまり' (The Beginning of Japanese Rework Programs) by 五十嵐 良雄 (Ryoichi Igarashi), 'リワーク研究会から協会へ、そして第3回年次大会web開催' (From the Rework Research Association to the Association, and the 3rd Annual Conference Web Event) by 大橋 昌資 (Masahisa Ohashi), '現在のリワークプログラム～コロナ時代のリワーク～' (Current Rework Programs ~Rework in the COVID-19 Era~) by 佐々木 一 (Ikki Sasaki), and '未来のリワークプログラム：ポストコロナ時代のリワーク' (Future Rework Programs: Post-COVID-19 Era Rework) by 寺尾 岳 (Takashi Terao). The poster also mentions a live broadcast (LIVE 配信) and a Q&A session (Q&A) at the bottom.

うつ病とAD/HDの併存

【趣旨・狙い】

成人期注意欠如/多動症(AD/HD)では、不注意や衝動性による生活上でのつまずきから、自尊心や自己評価が低下し、併存症を合併しやすいことが知られています。

実際、成人期AD/HD患者の約半数が何らかの併存症を有し、さらにその約1/3が2つ以上の併存症を有することが報告されており、併存症の存在が診断の困難さに大きく影響するだけでなく、治療に対しても影響を与えていると考えられています。

また、併存症の保有率としては、38.1%に不安障害、24.8%に気分障害、11.1%に物質乱用が認められたとの報告があることから、成人期AD/HD患者は、AD/HDそのものの症状で来院するというよりは、むしろ併存症の症状を訴えて来院するケースのほうが多いことが推測され、临床上は、併存症の背景にあるAD/HDを見逃さずに診断することが重要とされています。

そのため、本シンポジウムでは、各演者から成人期AD/HDの鑑別診断/併存診断時の注意点、うつ病を併存した成人期AD/HDの事例紹介、発達障害を専門とされていない精神科医が成人期AD/HDを診断するための診療クリニカルパスを紹介していただき、うつ病を併存する成人期AD/HDを適切に診断するために必要な事柄について議論を深めたいと思います。

座長：樋口 輝彦 先生（一般社団法人日本うつ病センター/ 国立精神・神経医療研究センター）

演者：「成人期AD/HDの診断」

岡田 俊 先生（国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 知的・発達障害研究部）

「実臨床下でのうつ病と成人期ADHDの併存について」

柏 淳 先生（医療法人社団ハートクリニック

ハートクリニック横浜）

「うつ病の背景に存在する神経発達症を診る

～診療クリニカルパスを導入して～」

堀内 史枝 先生（愛媛大学医学部附属病院

子どものこころセンター 精神科）

共催：塩野義製薬株式会社 メディカルアフェアーズ部/

武田薬品工業株式会社 ジャパンメディカルオフィス



Cognition and Beyond: Changing the Trajectory of Bipolar Disorder

【趣旨・狙い】

双極性障害は、慢性かつ再発性の精神疾患であり、双極性障害の患者の多くは、気分症状が寛解してもなお持続する認知機能の障害を経験し、日常生活機能や心理社会的機能に低下が見られますが、その原因および経過についてはまだ解明されていません。また、憂慮すべき睡眠障害や不安などの非特異的な症状の併存が共通して認められます。

本講演では、双極性障害における認知機能に注目した早期段階での介入が、病態進行の経過に効果的な影響を与え、臨床転帰や日常生活機能・QOL を改善する可能性について、最新の研究成績をレビューし、現時点で最良の治療アプローチを考えます。

座長：加藤 正樹 先生（関西医科大学 精神神経科学講座）

演者：「Cognitive Decline in Bipolar Disorder: Can we prevent it?」

Katherine E. Burdick 先生

(Associate Professor of Psychology in Psychiatry, Harvard Medical School

Director of the Mood and Psychosis Research Program,

Associate Vice Chair for Research in Psychiatry,

Brigham and Women's Hospital in Boston, MA, USA)

「Thinking about Cognition in Bipolar Disorder」

Allan H. Young 先生

(Professor, Department of Psychological Medicine

Vice Dean, Academic Psychiatry (Interim)

Institute of Psychiatry, Psychology & Neuroscience (IoPPN)

King's College London, London, UK)

共催：大日本住友製薬株式会社

メディカル・アフェアーズ部

第17回日本うつ病学会総会 共催シンポジウム 4

2021年1月28日(木) 17:00-19:00

ライブ配信 2021年1月27日(水)~1月29日(金)

Cognition and Beyond: Changing the Trajectory of Bipolar Disorder

座長 加藤 正樹 先生 関西医科大学 精神神経科学講座 准教授

Dr. Katherine E. Burdick, PhD, Associate Professor of Psychology in Psychiatry, Harvard Medical School, Director of the Mood and Psychosis Research Program, Associate Vice Chair for Research in Psychiatry, Brigham and Women's Hospital in Boston, MA, USA

Dr. Allan H. Young, MB, ChB, MPhil, PhD, FRCPsych, FRCP(C) Professor, Department of Psychological Medicine, Vice Dean, Academic Psychiatry (Interim), Institute of Psychiatry, Psychology & Neuroscience (IoPPN), King's College London, London, UK

Thinking about Cognition in Bipolar Disorder

ライブQ&A 日本製薬株式会社

共催：大日本住友製薬株式会社メディカルアフェアーズ部

第17回日本うつ病学会総会 Virtual シンポジウム 4 Cognition and Beyond: Changing the Trajectory of Bipolar Disorder

座長 加藤 正樹 先生 関西医科大学 精神神経科学講座 准教授

演者1 Dr. Katherine E. Burdick, PhD, Associate Professor of Psychology in Psychiatry, Harvard Medical School, Director of the Mood and Psychosis Research Program, Associate Vice Chair for Research in Psychiatry, Brigham and Women's Hospital in Boston, MA, USA

Cognitive Decline in Bipolar Disorder: Can we prevent it?

双極性障害は、慢性かつ再発性の精神疾患であり、双極性障害の患者の多くは、気分症状が寛解してもなお持続する認知機能の障害を経験し、日常生活機能や心理社会的機能に低下が見られますが、その原因および経過についてはまだ解明されていません。また、憂慮すべき睡眠障害や不安などの非特異的な症状の併存が共通して認められます。

本講演では、双極性障害における認知機能に注目した早期段階での介入が、病態進行の経過に効果的な影響を与え、臨床転帰や日常生活機能・QOL を改善する可能性について、最新の研究成績をレビューし、現時点で最良の治療アプローチを考えます。

演者2 Dr. Allan H. Young, MB, ChB, MPhil, PhD, FRCPsych, FRCP(C) Professor, Department of Psychological Medicine, Vice Dean, Academic Psychiatry (Interim), Institute of Psychiatry, Psychology & Neuroscience (IoPPN), King's College London, London, UK

Thinking about Cognition in Bipolar Disorder

双極性障害は、慢性かつ再発性の精神疾患であり、双極性障害の患者の多くは、気分症状が寛解してもなお持続する認知機能の障害を経験し、日常生活機能や心理社会的機能に低下が見られますが、その原因および経過についてはまだ解明されていません。また、憂慮すべき睡眠障害や不安などの非特異的な症状の併存が共通して認められます。

本講演では、双極性障害における認知機能に注目した早期段階での介入が、病態進行の経過に効果的な影響を与え、臨床転帰や日常生活機能・QOL を改善する可能性について、最新の研究成績をレビューし、現時点で最良の治療アプローチを考えます。

ライブQ&A 日本製薬株式会社

共催：大日本住友製薬株式会社メディカルアフェアーズ部